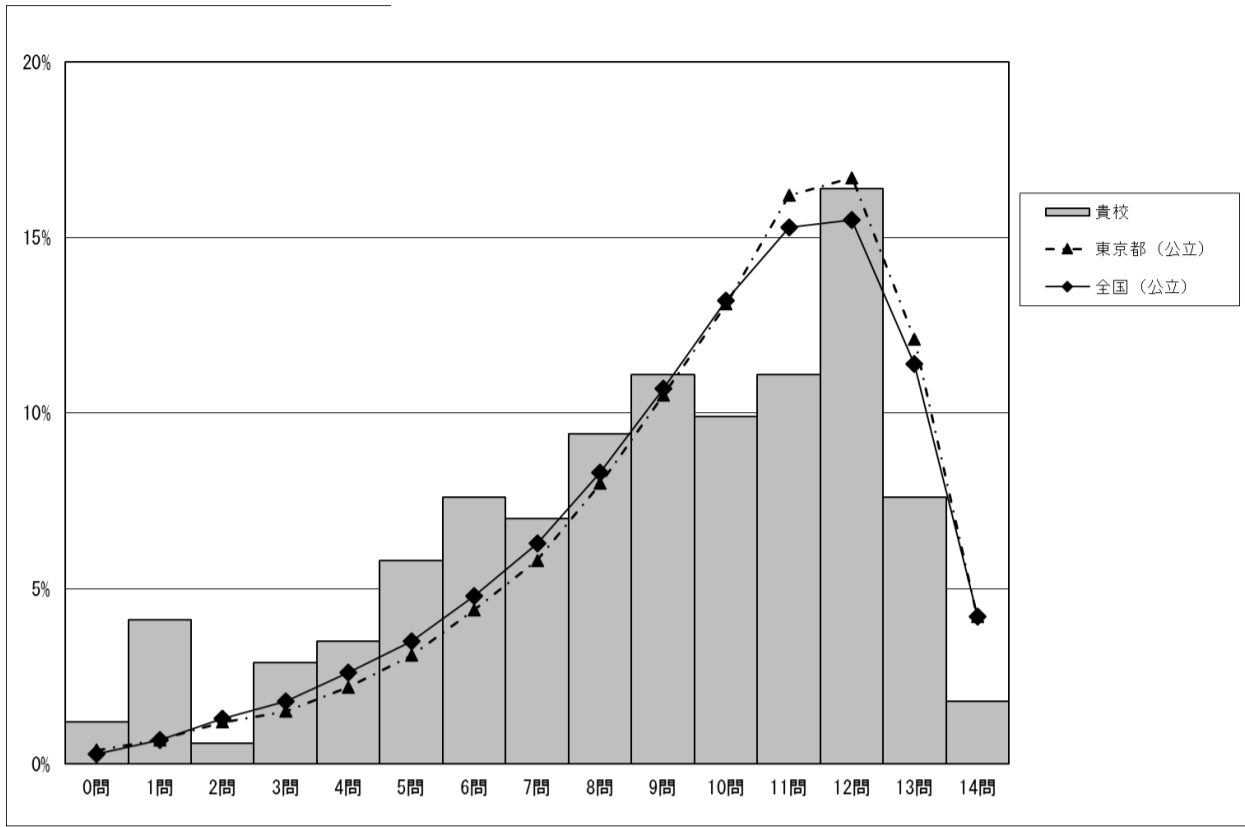


# 令和5年度 全国学力学習状況調査

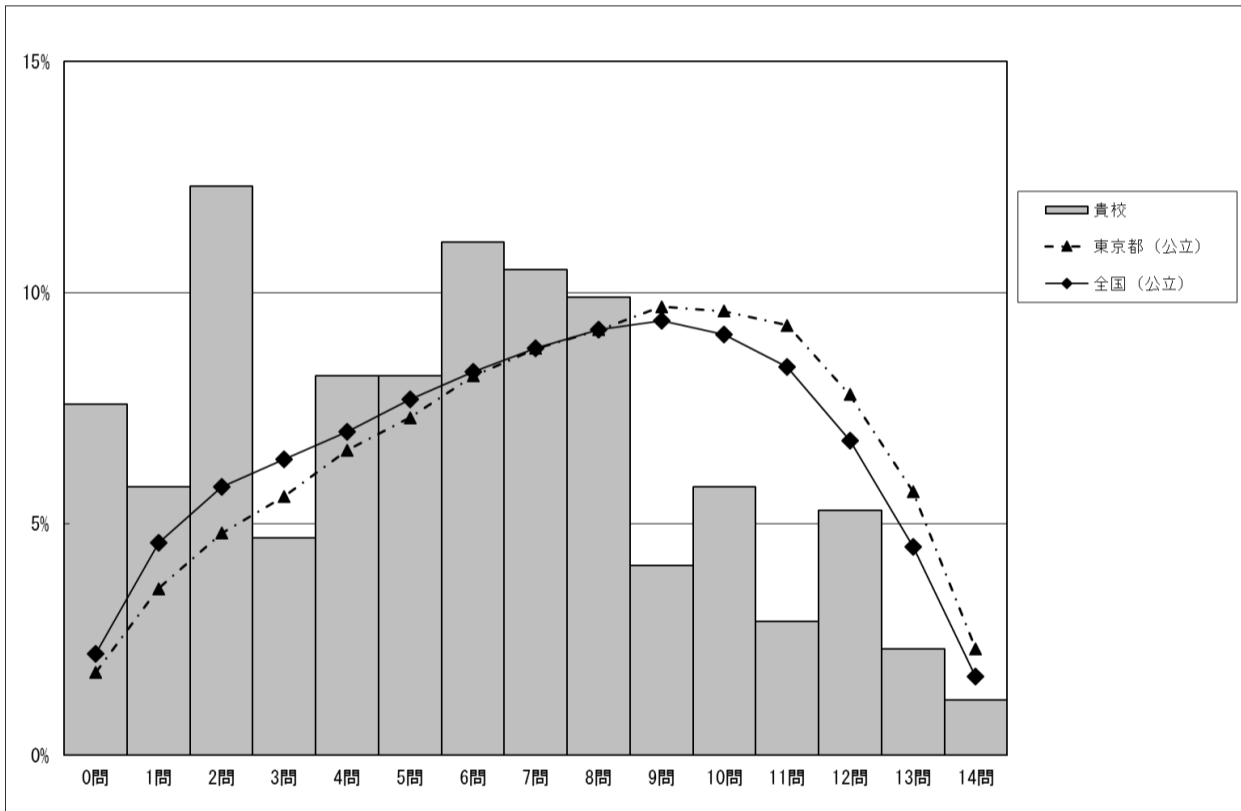


## 〔国語〕

学習指導要領の領域としては、「情報の扱い方」が正答率において都平均より2.4ポイント高いが、「言葉の特徴や使い方」及び「我が国の言語文化」が10ポイント以上低かった。「書くこと」については、2.4ポイント高かったが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が若干下回った。

例「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」という出題に対し、都の平均より15.5ポイント低かった。

対話的な学びの機会を増やすこと、あきらめずに表現することに取り組ませる。  
 弁論に取り組む上での指導を丁寧に行う。

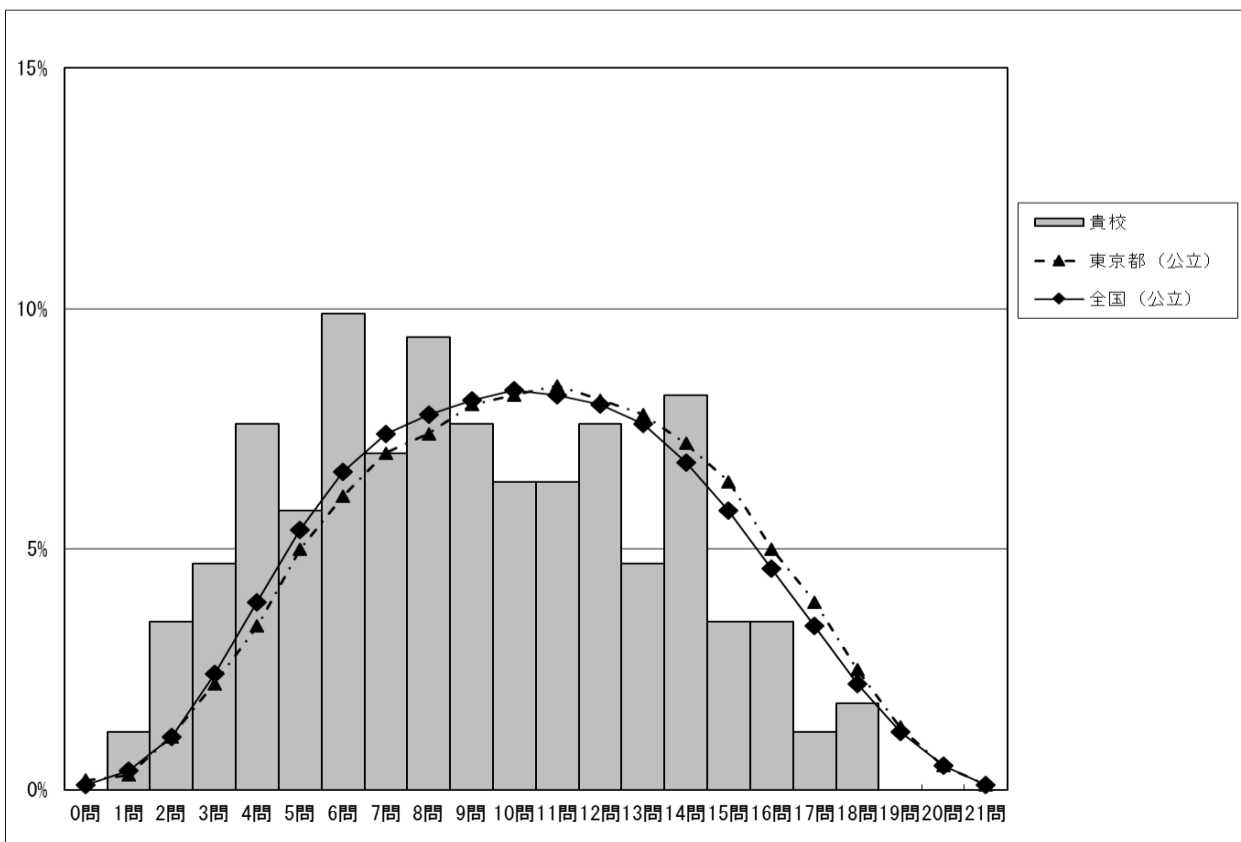


## 〔数学〕

すべての領域について、10ポイント程度都の平均を下回った。特に、学習指導の領域「数と式」が17.6ポイント下回った。

例「42を素因数分解する」の正答率が、都は47.6％であるのに対し、本校では28.1％である（-19.5）。

学び合い学習の中で、自身がどこでつまづいているかを把握し、基礎・基本が定着するまで繰り返し学習をさせる必要がある。学習コンテストの実施により、家庭学習習慣の向上を図りながら、「やればできる」という実感をもたせるよう粘り強く取り組ませる。



## 〔理科〕

学習指導要領の領域としては、「生命を柱とする領域」が特に低く、正答率において都の平均より12.1ポイント低かった。また、問題形式としては、記述問題が13.7ポイント下回った。

例「ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する」が、都を18.2ポイント下回った。

自然現象や生物の体のつくりなどを科学的にとらえ理解する習慣をつけさせる。「なぜ」の問いかけを大切に、授業展開を図る。